徳川時代人口に関する新資料

須 田 昭 義

徳川時代人口に関しては關山直太郎氏著「近世日本人口の研究」(昭和 23 年)によつて教えられるところが多かつた。頃日手に入れた「三暇謾録」と題する寫本(天保年間筆寫のものと思われる)に、前掲本に載せられていない享保 6 丑年の國別人口その他があるので書留めておきたい。

周知の如く享保 6 年は徳川時代最初の全國人口を集計した年であつて、その總人口は寛政年間太田南畝が編した「竹橋餘筆別集 8」によつて 26,065,422 人であつたことが知られている。その國別人口は知られていなかったが、本書「國中人數石高之事」の項に天保 5 午年の人口及び石高とともに併記してあり、始めて當時の國別人口が知らるゝに至つたのである。その數は次の通りである。

山城	564,994人	信濃	693,947	備前	338,523
大和	413,331	上野	569,550	備中	333,731
河内	243,820	下野	560,020	備後	321,008
和泉	218,405	陸奥	1,962,839	安藝	361,431
攝津	809,242	蝦夷松前	15,615	周防	262,927
伊賀	95,978	出羽	877,650	長門	212,124
伊勢	543,737	若狹	86,598	紀伊	519,022
志摩	31,856	越前	367,652	淡路	105,226
尾張	554,561	加賀	206,933	阿波	342,386
三河	416,204	能登	152,113	讃岐	334,153
遠江	342,663	越中	314,158	伊豫	504,045
駿河	245,834	越後	932,461	土佐	351,547
伊豆	96,650	佐渡	95,748	筑前	302,160
甲斐	291,168	丹波	284,893	筑後	266,426
相模	312,638	丹後	125,276	豊前	248,187
武蔵	1,903,316	但馬	149,732	豊後	524,394
安房	115,579	因幡	122,030	肥前	609,926
上總	407,553	伯耆	132,981	肥後	614,007
下總	542,661	出雲	222,330	日向	211,614
常陸	712,387	石見	207,965	大隅	112,616
近江	602,367	隱岐	18,133	薩摩	149,039
美濃	545,919	播磨	633,725	壹岐	19,993
飛騨	67,032	美作	194,226	對馬	16,467

男女別人數、全國總人數は記されていない。國毎のを合計すると 26,065,422 人となり竹橋餘筆別集所載の數値に合致する。然しこれらの數値は最初の不慣な調査である上に、「人數之儀去年分成分共、當年分成分共、委く相知れ候人數高認め可被差出候。左候はゞ何之年之人

數高に候との儀、可被書載候云々」と指令され、従つて嚴密にいえば享保6年の人口でないことが明らかであつて、その信頼性が疑われる點が多い。

假にこの國別人口に基礎をおいて、「日本民族」（日本人類學會編、昭和27年刊）中の「我國人口密度の變遷と文化中心地帯の移動」に載せたと同じ方法で1平方軒について人口密度を算出すると、全國平均では享保6年(1721)は90、文化元年(1804)は89となり、兩者間に差はないものと認められる。然し地方的にはかなり違いのみられるものがある。

	享保6年	文化元年	差		享保6年	文化元年	差
下野	87人	63人	-24人	尾張	343人	376人	+33人
常陸	133	91	-42	志摩	115	137	+22
武藏	317	277	-40	出雲	83	104	+21
伊賀	163	136	-27	安藝	79	109	+30
山城	499	415	-84	周防	86	117	+31
大和	112	92	-20	淡路	178	207	+29
和泉	428	396	-32	阿波	83	103	+20
河内	376	332	-44	讃岐	180	213	+33
伊豆	68	88	+20	薩摩	40	64	+24
安房	202	235	+33	壹岐	144	184	+40

これを通覽すると關東一帯、畿内一帯の減少が激しく、尾張、山陰、安藝一周防、四國東部並びに所々の半島及び島嶼の密度が増加しているように見受けられる。

以上「三賔漫錄」には享保6年と天保5年の國別人口を列舉した後に、武藏國のみについて享保6年から天保5年までの6年毎に調査された人口を列記している。

享保6丑年	人數	1,903,316人	天明6午年	人數	1,626,968人
同12午年 ^①	人數	1,800,783人	寛政4子年	人數	1,634,048人
同17子年	人數	1,850,599人	同10午年	人數	1,666,131人
元文3午年	人數	1,737,205人	文化元子年	人數	1,654,368人
延享元子年	人數	1,787,021人	同7午年	人數	1,674,669人
寛延3午年	人數	1,771,214人	同13子年	人數	1,675,300人
寶曆6子年	人數	1,774,064人	文政5午年	人數	1,694,255人
同12午年	人數	1,737,158人	同11子年	人數	1,717,455人
明和5子年	人數	1,753,994人	天保5午年	人數	1,714,054人
安永3午年	人數	1,707,719人	同11子年 ^②	人數	
同9子年	人數	1,702,784人	弘化3午年 ^③	人數	

① 享保11午年の誤寫。

② 天保5年以前と同筆であるが、人數の記載はない。

前掲關山氏の著書によると元文3年、文化7年、同13年、天保11年及び弘化4年以後の調査結果はまだ知られていないようである。上表によると弘化以後は判らぬが、それ以前には少なくとも武藏國に関しては、正確に6年毎に人口調査がなされたことは確かであり、この寫本は恐らく全國についてもそうではなかつたかと推定される資料であろうと思う。楮上掲の數値をみると、享保6年と同11年の5年間に10萬人、享保17年と元文3年の6年間に11萬人減少し、兩度とも續く6年間に5萬人増加しているのはどう理由であろうか。享保6年ののが過大に、元文のが過少に算定されたとすれば、減少の傾向が比較的滑らか

になる。最初の 4~5 回の調査の不備のためか、尙又他に理由があるのか判断し兼ねるところである。然し大體の傾向は初め人口の減少をみ、天明 6 年 (1786) を最低にして、以後は増加を續け、吹塵録によると弘化 3 年 (1846) には 1,777,371 人に達している。

尙この寫本には最初に「國中人別御改之事」「先年來人數増減之分前後之帳面突合之事」「國中人數石高之事」即ち寛延 3 年の人口調査結果が記され、最後には「諸大名人數石高之事」「大名悉御家來に成る事」「諸大名參勤之節從者御定之事」「諸大名諸士江被仰渡御儉約之事」「江城御造營之事」というのがついている。

(東京大學理學部人類學教室)

New Data on the Population in the Tokugawa Period

AKIYOSHI SUDA

I bought a manuscript some days ago and found in it some descriptions on the population of each Province (Kuni) of Japan in the year 1721, the first census in the Tokugawa Period, which has not been known, hetherto, to the present time scholars. The numerals will be seen in the Japanese text.